

令和元年度

第1回 磐田市文化財保護審議会 報告

- 1 日時 令和元年7月30日(火)13:30～15:20
- 2 場所 磐田市埋蔵文化財センター 2階 研修室
- 3 出席者 磐田市文化財保護審議会委員 9名
平野吾郎会長 小杉達副会長 芹澤拙夫委員
日比野秀男委員 増田千次郎委員 鈴木敬雄委員
坪井俊三委員 加藤理文委員 中山正典委員 委員
事務局 8名
村松教育長・市川教育部長・高梨文化財課長・村松課長補佐
兼管理グループ長・竹内主幹兼調査グループ長・木村歴史文
書館長・室内・佐口
- 4 傍聴人 なし
- 5 議事
 - 1 開会
 - 2 委嘱状交付
 - 3 教育長あいさつ
 - 4 正副会長選出
 - 5 正副会長あいさつ
 - 6 審議事項
文化財保存活用地域計画項目案について

〔事務局からの説明〕

- ・平成30年度の文化財保護法改正により、都道府県は「文化財保存大綱」を、市町村は「文化財保存活用地域計画」の策定が法制化された。任意の規定ではあるが、実際に各種の補助金の要綱をみると保存活用計画を策定してある市町については補助金に5%上乘せすることができる、というような内容が記載されているものもあり、文化庁のほうでこの法制度を活用するように強く指導している。
- ・静岡県も今年度末に「大綱」が策定される予定であり、それに合わせ磐田市も来年度に「地域計画」の策定を考えている。
- ・今回資料でお示ししたのは、文化庁の指針に項目が記されており、項目を埋めていったというものである。
- ・以降、項目ごとに内容説明。

〔序章〕

- ・地域計画の策定期間を10年とした。

〔第1章〕 磐田市の概要

- ・市の概要、市の歴史の概要を記す。
- ・郷土の偉人、オリンピックメダリスト一覧も記載する。

〔第2章〕 磐田市の文化財の概要

〔第3章〕 磐田市の歴史文化の特徴

- ・東海道があり、西と東の文化を受けやすい、ある時期には天竜川や太田川が阻害・障害となって独自の文化発展をしている地域ととらえ記述。
- ・北遠とのつながりと天竜川、太田川の上流と下流の関係、道の東西でのとらえ方をしたい。
- ・平成26年3月に「磐田市文化財保護基本構想」を策定済であるが、その中でのエリア別の文化財リストでなく文化財の有機的なつながりをみて文化財把握をしていきたい。

〔第4章〕 文化財の保存・活用に関する方針

- ・悉皆調査が必要として、文化庁の指針に、寺院一覧、神社一覧、古文書一覧、史跡一覧などが示されているが、磐田の場合、徳川家康関連史跡一覧、火の見櫓一覧、秋葉燈籠一覧、たばこ乾燥室一覧なども地域性を示すものと考えている。現在石造物一覧を作成中である。
- ・考古資料で良いものが東京国立博物館に収蔵されており、民具が幼稚園跡地に保管されているなど、文化財資料を一括で管理できていない状況が問題点としてある。
- ・史跡に関しては、調査報告書が刊行できれば指定になる可能性がある遺跡がいくつもある。これらの遺跡の報告書が刊行できて指定を目指すというような作業の必要性を課題であげている。

〔第5章〕 文化財の保存・活用に関する措置

- ・発掘調査報告書未完のもの作業、史跡測量未実施のところへの作業、が具体的な活動である。
- ・防災対策についての記述も行う。
- ・普及啓発活動についての取組や民間との連携についての記述もする。

〔第6章〕 文化財の保存・活用の推進体制

- ・文化庁の書式にあわせ記述する。
- ・県は大綱策定にあたり今後、市町をあつめて意見徴収の場を設ける。文化庁は9月に研修会を実施するので、参加予定である。

[委員からの主な質問・意見]

- ・民家調査が行われていない。立派な商家と違い、農家の場合わかりづらい。ぜひ調査してほしい。
- ・啓蒙活動もやってほしい、文化財の何が価値かを、文章の中で語ってほしい。
- ・調査報告書未完のものはできるだけ早く刊行してほしい。
- ・悉皆調査の中に、天竜川の旧堤防なども入れてほしい。
- ・天竜川流域の舟形屋敷も確認しておいてほしい。

7 報告事項

①市指定無形民俗文化財 池田やかた祭り映像化事業について

[事務局説明]

- ・芸術文化振興会の助成金を使って映像記録化をすすめる。
- ・池田やかた祭りの準備から最後までの一連の流れを撮影し、一般向け、調査全記録、ダイジェスト版、の3種類のDVDを作成する。

②-1 市指定歴史資料 遠江秋鹿家関係資料（床几）の修繕について

②-2 市指定絵画 秋鹿朝重奉納絵馬（板絵著色左下がりに松鷹図）の修繕について

- ・床几は個人宅で管理している資料である。
- ・絵馬は府八幡宮で管理している資料である。
- ・いずれの資料も、伊豆屋伝八文化振興財団からの助成をうけて修繕を行う。

③特別史跡 遠江国分寺跡整備事業について

- ・今年度は昨年度に引き続き実施設計、指定地公有地化を行う。
- ・国史跡整備事例の情報収集も行っている。

[委員からの主な質問・意見]

- ・大きな木が残っていたら今のうちに切っておくのがよい。全国の史跡で地震や台風で木が倒れたことで遺構を壊す事例が非常に多い。
- ・奈良時代の国分寺跡を整備するのだが、現国分寺の遠江四十九薬師の第一番札所として信仰の場であること、を並列で考えてほしい。

- ・物にこだわりすぎるのではなく、土地や信仰といったソフトの面も大事にしてほしい。文化財という物の価値を別の視点で評価し価値を認めていくことは、地域計画にもつながる。
- ・磐田南高校用地にも遠江国分寺の遺構が広がることがわかっている。高校用地の取り扱いに関して、県文化財課や高校とも十分に連携をとってほしい。

④市指定史跡 阿多古山一里塚整備事業について

〔事務局からの説明〕

- ・昨年度整備が完了し、整備報告書を作成しました。

〔委員からの主な質問・意見〕

- ・一里塚には木を植えないのか。目印に木が植えてあるものだが。
→発掘調査によって、一里塚が築かれる以前の時代の遺構がある可能性があり、遺構を痛める可能性があるため、植栽は考えていない。また、北側急斜面の樹木繁茂による危険を防ぐための整備でもあったため、現時点では今の整備方法が最善と考えている。

⑤県指定天然記念物 善導寺大クスの土壌改良について

〔事務局からの説明〕

- ・3年目となる。昨年夏の酷暑および秋の台風被害によって樹勢が回復状況だったにもかかわらず逆に悪化したが、その後2年目事業をおこない改善してきている。
- ・今年度は塩害による枯れ枝に対する処置と土壌改良工事を実施する。

〔補足説明〕

- ・(芹澤委員) 今年に入って緑色が濃くなってきている。ようやくここへきて枯れ枝の枯れる部分が止まったようだ。おそらく木のほうで、枯れ枝を落として自分で調整しているようだ。今年度も枯れ枝を切ってやると、来年度以降はぐんぐん良くなると思う。葉はもう少し大きくなれないといけない。5年計画でやっている事業なので、5年目になれば随分違ってくると思う。

⑥令和元年度文化財啓発事業等実績

〔事務局より説明〕

- ・令和元年4月から7月に実施した啓発事業実績を報告。

⑦令和元年度文化財調査実績

〔事務局より説明〕

- ・令和元年4月から7月に実施した有形・無形文化財、埋蔵文化財調査実績を報告。